令和3年4月6日

公益財団法人　東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会
会長　　橋本　聖子　殿

予防接種推進専門協議会　委員長　岩田　敏

参加学術団体（22 団体）：
(公社)日本小児科学会 (公社)日本小児保健協会 (公社)日本産科婦人科学会
(公社)日本小児科医会 (公社)日本産婦人科医会 (公社)日本婦人科腫瘍学会
(一社)日本感染症学会 (一社)日本呼吸器学会 (一社)日本渡航医学会
(一社)日本保育保健協議会 (一社)日本耳鼻咽喉科学会
(一社)日本環境感染学会 (一社)日本プライマリ・ケア連合学会
(一社)日本老年医学会 (一社)日本性感染症学会
(一社)日本小児期外科系関連学会協議会 (一社)日本女性医学学会
日本ワクチン学会 日本ウイルス学会 日本細菌学会 日本臨床ウイルス学会
日本嫌気性菌感染症学会 (順不同)

第32回オリンピック競技大会（2020／東京）、東京 2020 パラリンピック競技大会の円滑な運営のための感染症対策に関する要望書

第 32 回オリンピック競技大会（2020／東京）、東京 2020 パラリンピック競技大会は、世界最大のスポーツによる祭典です。今回は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、長い歴史で初めて延期を余儀なくされ、その経緯から感染症対策についても世界中の注目を集めています。競技大会組織委員会においては、COVID-19 に伴う対応に加えて安全に大会を運営できるよう尽力されていることに最大限の敬意を表します。新型コロナウイルスのワクチンは各方面で開発の努力が継続されていますが、2021 年夏に開催予定の競技大会に間に合うかは不確定であり、そして感染症は COVID-19 だけではありません。

当協議会としましては、感染症対策を万全にした上で競技大会が迎えられるよう、ワクチンで予防可能な疾患（Vaccine Preventable Diseases）に対するワクチンの接種を以下要望いたします。特に競技大会組織委員会が管轄するオリンピック関連病院スタッフや、医療ボランティア、大会ボランティアについては、それぞれに必要なワクチンが円滑に接種できるようご検討をお願いいたします。

なお同様の要望書を東京都知事宛にも提出しますこと申し添えます。

【疾患啓発及びワクチン接種機会の創出についての要望】

日本感染症学会らが中心となり作成・発出された「症状からアプローチするインバウンド感染症への対応～東京2020大会にむけて～」に掲載されている「国際的マスギャザリングに関連したワクチン」を参照し、下記の各項にあげる接種対象者への疾患啓発及びワクチン接種機会の創出を競技大会組織委員会に強く要望いたします。

- すべての大会関係者；
  麻しん風しんワクチン接種歴の確認、接種歴が確認できない場合は、抗体検査する。
  必要に応じて麻しん風しんワクチンを接種させてください。
  （風しんワクチンに関わるクーポンを保有しているものは、それを活用する。それ以外のものには費用補助をお願いします）

- 大会に関わる医療関係者（医療ボランティア、オリンピック関連病院スタッフ、救急隊員も含む）；
  B型肝炎、髄膜炎菌感染症、流行性耳下腺炎のワクチンついて費用を補助しワクチンを接種させてください。

- その他大会関係者には、それぞれの役割に応じた疾患啓発の実施と、費用を補助しワクチンを接種させてください。
  - 大会ボランティア、警備を担当する警察官等　不特定多数の人と接する人；髄膜炎菌感染症
  - 食品を提供する生産者や調理従事者；A型肝炎
  - おたふくかぜワクチン接種歴がなく、かつ流行性耳下腺炎の既往歴もない人；流行性耳下腺炎

【以下参考資料】

日本感染症学会は、AC2020の協賛事業として、インバウンド感染症の対策などを具体的に解説した「インバウンド感染症への対応 ～東京2020にむけて～ 感染症クイック・リファレンス」を発刊し、**「国際的マスギャザリングに関連したワクチン」**として、以下８種の疾患を**「事前に接種しておきたいワクチン（表1）」**として明示しました。麻疹・風疹以外の対象疾患は下記となります（注1）。

（表1）事前に接種しておきたいワクチン

事前に受けておきたいワクチン

疾患名	一般市民	医療関係者	大会関係者	メディア関係者
麻疹	＋＋＋	＋＋＋	＋＋＋	＋＋＋
風疹	＋＋＋	＋＋＋	＋＋＋	＋＋＋
髄膜炎菌	－	＋＋	＋＋	＋
A型肝炎	－	＋	＋＋	－
B型肝炎	－	＋＋＋	－	－
水痘	＋	＋	＋	＋
流行性耳下腺炎	＋	＋＋	＋＋	＋
インフルエンザ*	＋	＋	＋	＋

＋＋＋　全員に強く推奨（定期接種が未完了もしくは不明のものを含む）、＋＋　感染のリスクが高いと考えられる人に推奨、＋　接種が好ましい、－　平時と同様の対応
*インフルエンザワクチンの接種に関しては、大会前ではなく、大会開催1年前（2019－20シーズン）の接種を指す

（注1）**<u>「国際的マスギャザリングに関連したワクチン」における、積極的に接種すべき対象者：（麻疹、風疹を除く）</u>**
※ 定期接種の対象者は、すべて接種すべき年齢に応じて必要回数の接種が行われていることを前提とする

- 髄膜炎菌（4価結合体ワクチンとして）
  - 医療関係者で大会関係者の髄膜炎菌感染症患者を診察・介護する可能性が高い人（救急担当の医師、看護師、救急隊員など）。
  - 大会関係者で髄膜炎菌の流行国（例：サハラ以南のアフリカ諸国、欧州・中東諸国など）からの参加者と接触する可能性が高い人（選手村で活動するスタッフ、ボランティア、通訳、メディア関係者など）。
  - その他、一般的に髄膜炎菌感染症としてリスクが高いと考えられている人、すなわち機能的・解剖学的無脾症、エクリズマブ投与者、男性同性愛者（MSM）など。

- A型肝炎
  - 医療関係者で大会関係者のA型肝炎患者を診察・看護介護する可能性が高い人（救急担当の医師、看護師、救急隊員など）。
  - 大会関係者に食品を提供する生産者や調理従事者。

- B型肝炎
  - 医療関係者（救急担当の医師、看護師、救急隊員など）。

- 水痘
  - 水痘ワクチン接種歴がなく、かつ水痘の既往歴もない人。

- 流行性耳下腺炎
  - おたふくかぜワクチン接種歴がなく、かつ流行性耳下腺炎の既往歴もない人。

- インフルエンザ
  - 東京 2020 大会は日本の夏期に開催されるため、インフルエンザワクチンの国内向けの供給は開始されていないことが考えられる。イベント期間中は一般的なインフルエンザ対策の実施を心がけるとともに、大会期間中のインフルエンザ様症状（ILI）にて受診した大会関係者、観戦者などについて、インフルエンザも鑑別疾患に挙げる。